津波・高潮危機管理対策緊急事業及び海岸保全施設における耐震点検の推進等

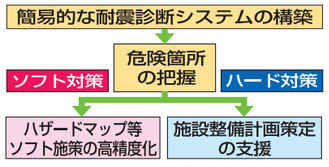
○ソフト対策

「沿岸構造物のチャート式耐震診断システム※」、「津波・高潮危機管理対策緊急事業」により耐震調査・評価及び浸水想定区域調査を実施し、沿岸自治体が津波・高潮ハザードマップを作成するための支援等を行います。

背後住民と資産を守る護岸・堤防等の耐震性を評価するには数値シミュレーションを実施するなど多大な費用と時間がかかるため、これまで約8割の施設で耐震性の確認ができていませんでした。そのため、簡易かつ安価に診断するシステムとして、当システムが開発されました。このシステムにより多くの海岸保全施設で耐震性評価が可能となり、住民へのリスク情報の提示に活用できます。

直立式、傾斜式施設に対応したシステムが平成17年7月に完成、運用を開始し、近畿管内の港湾海岸では点検状況が２割から６割（平成18年3月）に向上しました。現在、矢板式施設に対応したシステムを構築中です。

用語解説
※「沿岸構造物のチャート式耐震診断システム」とは、東南海・南海地震などの地震に対し護岸、堤防等の海岸保全施設がどの程度変形するか（耐震性の評価）を簡易的に診断するシステムです。



沿岸構造物のチャート式耐震診断システム図

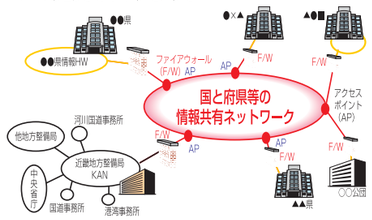
○ハード対策

津波防波堤の整備や津波・高潮危機管理対策緊急事業により緊急的に必要な避難路の整備、津波情報提供施設、津波防災ステーションの整備等を推進します。

近畿情報ネット整備の推進

東南海・南海地震など大規模地震災害に備えた防災危機管理の共有化、日常の河川・道路・港湾等の情報サービスの高度化を目的として、近畿地方整備局の光ファイバーと自治体等のネットワーク接続を推進してきました。

平成18年度は、高速大容量の光ファイバー網を活用した共有情報コンテンツの充実を図ります。



近畿情報ネット整備概念図

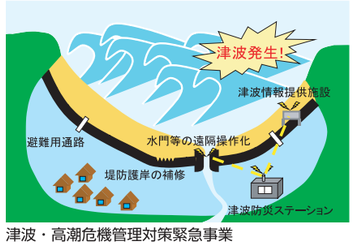
臨海部人口集積地における安全確保

平成16年の台風16号、18号等において、既往の最高潮位を超える高潮等により各地で浸水被害が発生しました。

このような高潮被害等を未然に防止するため、海岸保全施設の整備促進を図り、国民、背後地の安全・安心を確保していきます。

神戸大橋北詰

国道2号 京橋交差点側



津波・高潮危機管理対策緊急事業

一般国道42号 那智勝浦道路等の整備

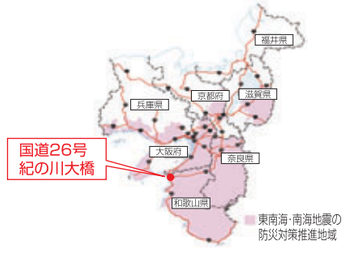
紀伊半島の主要都市は沿岸部に点在しており、その都市間の移動は国道42号に依存しています。また、台風の常襲地であることから国道42号では越波等により頻繁に通行止めなどの交通規制を余儀なくされています。さらに、紀伊半島では「東南海・南海地震」の発生による津波の被害も危惧されています。

このため、国道42号の交通混雑緩和や沿線地域の連携強化、地域の活性化を図り、災害時には国道42号の代替路、緊急輸送道路としての重要な役割を果たす那智勝浦道路の整備を進めるほか、地方道路整備臨時交付金等の活用による避難路等の整備を進めます。

那智勝浦道路の整備イメージ

「緊急輸送道路の橋梁耐震補強3箇年プログラム」の推進

大規模災害時における災害応急対策が迅速に実施できるよう、緊急輸送道路におけるネットワークを確保するため、「緊急輸送道路の橋梁耐震補強3箇年プログラム」（平成17年度～平成19年度）に基づき橋梁の耐震補強を推進します。



■安全・安心の確保に資する防災拠点官庁施設の整備

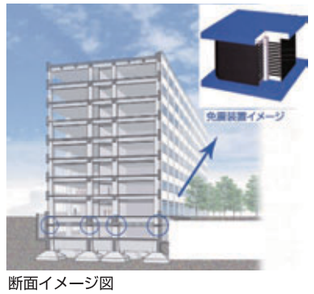
福井 | 滋賀 | 京都 | **大阪** | 兵庫 | 奈良 | 和歌山 | 三重

大阪第１地方合同庁舎

東南海・南海地震等に備え、近畿地方整備局等が入居し防災拠点施設としての役割を担う大阪第１地方合同庁舎を大地震時にも、人命の安全確保に加えて十分な機能維持が図れるよう整備を推進します。

地下１階柱頭部に免震装置を設置し、地上階に地震動が伝わりにくい構造とするとともに、地階部分の柱・梁の補強を実施し、防災拠点施設として所要の耐震性能を確保します。

大阪第１地方合同庁舎



断面イメージ図

■大滝ダム建設事業

福井 | 滋賀 | 京都 | 大阪 | 兵庫 | **奈良** | **和歌山** | 三重

大滝ダム

県庁所在地など政治経済が集中している下流地域において、上流部における集中豪雨等により、大規模災害を被るおそれがあります。

このような壊滅的な被害を防止し、かつ近年頻発する渇水や沿川自治体の水需要に対応し、新規用水開発の安定した水供給や既得用水の確保、流水の正常な機能の維持と増進を図るため、紀の川水系では「大滝ダム」の建設事業を実施しています。

大滝ダムは、昭和34年の伊勢湾台風による甚大な被害が契機となり、建設が進められています。このダムには様々な最新の技術が導入されているほか、周辺との景観にも配慮された多目的ダムです。このダムが完成すれば紀の川水系では洪水調節が可能な唯一のダムとなります。

平成18年度は、平成15年の試験湛水により発生した白屋地区地すべりの対策工事を継続します。

大滝ダムの整備には、以下の効果があります。

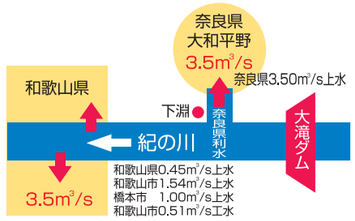
■洪水調節
大滝ダムの建設される地点における計画高水流量、毎秒5,400㎥/sのうち、毎秒2,700㎥/sの洪水調整を行います。

■流水の正常な機能の維持
大滝ダムの下流において、非洪水期（毎年10月16日から翌6月15日までの間）において生態の保全等流水の正常な機能の維持、増進を図ります。

■水道用水・工業用水
奈良県・和歌山県・和歌山市、橋本市に対して水道用水を供給します。また、和歌山市に対して工業用水を供給します。

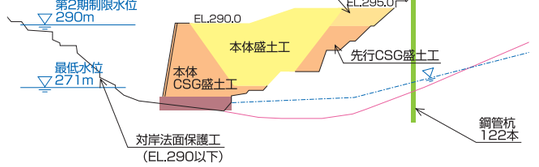
■発電
大滝ダム建設に伴って新設された大滝発電所において、最大出力10,500kwの発電を行います。

白屋地区（平成18年4月撮影）



大滝ダム利水模式図

CSGプラント写真（平成18年3月撮影）



CSG‥掘削土砂や河床砂礫等の発生材にセメントを添加・混合した材料
白屋地区地すべり対策工事（断面図）

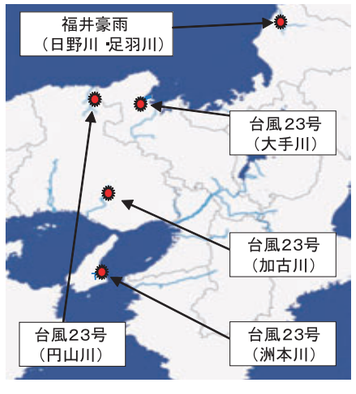
■河川激甚災害対策特別緊急事業

福井 | 滋賀 | **京都** | 大阪 | **兵庫** | 奈良 | 和歌山 | 三重

円山川、日野川、足羽川、洲本川、加古川、大手川

平成16年7月福井豪雨により被災した日野川・足羽川及び、平成16年10月台風23号で被災した円山川・大手川・加古川・洲本川では、再度災害防止のための整備を実施します。

●円山川（直轄）
下流部の河床掘削、KTR円山川橋梁架替、豊岡市街地の内水対策等を実施します。
●日野川（直轄）・足羽川（補助）
日野川では三郎丸地区の河床掘削、低水護岸を実施します。足羽川では河床掘削、護岸整備、橋梁架替等を実施します。
●洲本川（補助）・加古川（補助）
洲本川では河床掘削、護岸整備、橋梁架替等を実施します。加古川では河床掘削、護岸整備、橋梁架替等を実施します。
●大手川（補助）
河床掘削、護岸整備、測量・用地買収等を実施します。

河床掘削状況（円山川）

河床掘削状況（日野川）